前泊港埋め立て計画について / 野甫英芳

■7番 野甫英芳議員 村の土地利用計画で、伊平屋村の前泊港のFS調査に基づいて、前泊港を埋め立てて運動公園、村民プール、体育館、テニスコートの新設移転、またそこに宿泊施設など新設する計画があります。つまり前泊港を埋め立てて、運動公園や教育委員会などの施設、村民プールをそっくりそのまま前泊港の埋め立て地に移転をするという計画があります。これは実際に本当に埋め立てて実行するのかという事をお伺いしますので、よろしくお願ひいたします。

■議長（金城信光） 答弁、名嘉彰建設課長。

■名嘉彰建設課長 野甫議員の質問にお答えいたします。FS調査の後の話になるかなと思いますけれども、これに関しましては伊平屋村を取り巻く経済状況も踏まえて土地需要、港湾需要を確認して、需要が確認された土地利用や港湾利用に対する構想案を作成して、整備手法なり概算規模なりを想定して、事業化の可能性や予算を検討していきたいと思ひます。以上です。

■議長（金城信光） 野甫英芳議員。

■7番 野甫英芳議員 将来的に前泊港を埋め立ててそこに運動公園を造るという計画を具体的にやるつもりなのかどうか、そのへんはいかがですか、村長。

■議長（金城信光） 答弁、名嘉律夫村長。

■名嘉律夫村長 野甫議員の質問にお答えします。防災に強い島を造るために必要ではないかと思ひます。これから地球規模で地震だったりとか、台風も大型化してきております。そういった中でまずは一番優先してやるべきはやっぱり港の整備だと思っております。去った1月の石川県能登半島の地震もそうだったんですけれども、やはり港が使えないっていうのが一番、復興が遅れている理由もそうなんですけど、やっぱり人命を救助するために、いち早く行けるといふ、救命救助にもやっぱり港が使えなかったりとかいふ事もありますね。

万が一の事を想定して、港をしっかり整備する。島の人を何処かへ避難させるといったら、今のフェリーでは乗りきれない。もちろんフェリーの活用も考えているんですけれども、大きな船が接岸できる港を整備しながら役場の機能を下におろすというのが最大の目標です。万が一地震があつて津波が来ると、役場も5mということで入ってきますね。そういうことで、いずれは役場の本庁も上に移転するという事も計画していかなきゃいけないと考えています。いずれにしても一番大事なのは行政なので、役場の機能を下におろして、行政部の司令塔をどっか高台にあげるということですね。

まず災害に強い港を造っていくというのが一つの目標でもあると思うんですけども、いずれにしてもこれからいろいろな面で観光とかも増えてきますので、うまくここを埋め立てて活用できる施設を造る。そういうのも一つの対象になってくると思ひます。

計画ですので、実現に向けてこれからどうしていくかというのが、我々がやるべき事だと思っておりますので、これからしっかり将来に向けていろいろ議論をしていければと思っております。以上です。

■議長（金城信光） 野甫英芳議員。

■7番 野甫英芳議員 村長がおっしゃられたとおり、行政機関を高台に移転する

計画がありますね。その他にも診療所とか保育園とか幼稚園とか、現在の村民運動公園のある高台に移転する予定がありますね。結局、高台に行政関係に移転すると現在の村民運動公園が使えなくなるので、前泊港を埋め立ててそこに村民運動公園を設置するという計画なんですよね。

埋め立て工事に関してなんですけど、以前、前泊港が埋め立てされてるとか東側海岸がいろんな埋め立てで護岸工事とかで、いろいろできてますね。その護岸工事とか人工物を造って沖に張り出したお陰で、昔に比べて伊平屋村の砂浜が非常に狭くなってきています。昔は島中どこでも亀が卵を生んでいたんですけど、今、満潮になるともう島の道路際まで波が上がってくるので、亀がどこにも産卵をしないというような状況になっています。

ですから例えば前泊港を埋め立てて、400m~800mの運動場を造るのにかなりの埋立工事があるんですけど、あれを埋め立てると、埋め立てられた海に今まで寄っていた海水は、どこへ行くのかとかいろいろあります。そのへんも考慮しながら事業を進めていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。